

聖陵 Sei-Ryou

2012.3 Vol.15
盛岡大学聖陵同窓会報

発行者／盛岡大学聖陵同窓会
事務局／〒020-0183

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込808 盛岡大学内

電話: 019-688-5555

ホームページアドレス

<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/index.html>

東日本大震災により被害を受けられた皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

CONTENTS

■ 同窓会長あいさつ	1	■ 震災ボランティア	3
■ 学長あいさつ	1	■ 川崎支部だより	3
■ 新理事長あいさつ	2	■ 事務局便り	4
■ 栄養科学科がスタートして2年が たちました	2	■ 決算報告	4
■ 卒業生は今	3	■ 編集後記	4

→同窓会長 あいさつ



盛岡大学聖陵同窓会会长
菅原 元

『ありがとうございます』三月一日午後、二階の四年生の教室に、育てくれた父母への感謝の気持ちを込めた児童の歌声が響いていた。十歳を祝う「二分の一成人式」の記念DVD用に担任の佐々木芳樹先生が録音していた。その後の津波での死去。宮城県石巻市大川小学校の佐々木芳樹さんは、二十二期生の同窓生です。絆を繋ごうと多くの生徒から信頼を寄せられた佐々木さんの御冥福を心よりお祈り致します。

震災後の盛岡大学は、被災地児童支援ボランティアや被災地図書館支援プロジェクト等を立ち上げています。特に図書館支援プロジェクトは、司書課程学生の専門性を生かした「陸前高田市立図書館」「野田村立図書館」への支援は、マスコミにも広く掲載されました。

また、同窓会として、赤十字社を通じての寄付金を贈呈させて頂きました事を報告致します。

さて、盛岡大学は、二十三年十月より、太田稔新理事長が就任され、新体制がスタート致しました。太田理事長は以前、学長を歴任なされており、多くの同窓生にとても御指導頂き、懐かしい事でしよう。

同窓会事業の一つでもある支部開設に

際しましては、昨年の夢灯り事業のリーダーの小笠原さんが今度は、川崎支部リーダーとして、絆を深めているとのうれしい報告もあります。

今後共盛岡大学と聖陵同窓会に温かい御支援をよろしくお願ひ致します。

→学長 あいさつ



盛岡大学聖陵同窓会名譽顧問
望月 善次

ださることそれ自体が、私ども後に続こうとしている者にとってのどんなに大きな励ましであるかということを、先ず申し上げたいと思います。そして、こうし

た時だからこそ、「もう一歩前へ!」というお願いを申し上げたいと思います。

皆さんの学生時代の頑張り、卒業してからの奮闘振りを知っている者からすると、昨年度も申し上げたかと存じますが、

同窓会の現状はいかにもモッタイナイと思います。

全国の四年制大学の五割弱、短期大学部で言いますと七割弱が、定員割れに苦しんでいるのが実態の中、また、昨年度まで大丈夫だった大学・短期大学（部）が、そのつきの年度には、定員割れを起こしたり、はなはだしい場合は廃学に追い込まれても不思議のないところに全国の大学・短期大学（部）はいるのです。

切実な思いをもって皆様のお力添えをお願いする所以です。

私が会長や副会長に申し上げているのは、「大学の職員は今手一杯な状況だと思います。大学の勤務をしながらの同窓会の事務では限界があると思います。今は、大学の職員は今手一杯な状況だと思いますが、大学の勤務をしながらの同窓会の事務では限界があると思います。今より進もうと考えるなら、例えば、専門のパートの方などを雇用することは不可能でしょうか。」というようなことです。

そこへ、あの「2011.3.11 東日本大震災」でした。

皆様は御無事だったでしょうか。

おそらくは、直接、間接を問わず、様々なところを潜っておられることが拝察申しあげます。改めて、被災された皆様への御冥福への祈りとお見舞いを、そして、種々の条件の中で懸命に頑張っておられる皆様に敬意を表したいと思います。

こうした時だからこそ、皆様がいてくれることを知らないわけでもありません。

大学や短期大学（部）は、こうしたことを申し上げねばならないところまで追いついており、また、それだけみなさんへの期待が大きいのだとお考えくださればどんなにありがたいことでしょう。

新理事長あいさつ



新理事長 太田 稔

時の聖陵同窓会の会長は千葉孝之氏でした。

私の学長在職期間は短いながら、計画した三十ほどの課題の殆どを実現することができました。これ偏に当時の土屋文部長を始め教職員や学生さんのお陰と感謝しております。学長任期内は学生さんと交流するなど大変楽しい時間を過ごしました。

平成九年五月から学校法人盛岡大学理事長を務められ、聖陵同窓会名譽顧問をされていた久慈次男前理事長に代わり、平成二十三年十月十八日開催の学校法人盛岡大学理事会において太田稔理事長が就任されました。太田理事長は平成九年から学校法人盛岡大学理事を、平成十年から二年間盛岡大学・盛岡大学短期大学部学長を務められました。

優しい笑顔の中にも厳しさのある太田元学長に懐かしさを覚える同窓生の方も多數いらっしゃることでしょう。法人全体と盛岡大学を見守ってくださっていた太田新理事長に理事長就任、同窓会名譽顧問就任にあたっての御挨拶をいただきました。

昨年の夏、久慈前理事長が体調を崩され、これまた突如と理事長に就任した次第です。皆さんご存知のように、久慈様は困難期にあつた本法人を見事に立ち直られました。そのご功績は誠に偉大です。

さて、これから課題ですが現在、私立大学の三割、短大の六割程が定員割れの状態ですので、本学ではそのような事態に陥らないようになりますが、最大の使命と思っております。幸い本学は現在、受験生が多いですが、これは過去、現在の教授陣の熱心な指導と卒業生の皆さんの社会での評価が高いことによるものと思っており、深く感謝致して居りました。

最初に、自己紹介をさせて頂きます。私は岩手医大を定年退職しましたが、その後、当時の久慈理事長から突然として学長就任のお話を頂き、仕事を経て平成十年四月、学長に就任しました。初代学長細川泰子先生の時代に、短大の非常勤講師をして居りましたので、不思議なご縁だと思つております。私は自分の能力を知つて居りましたので、ピンチヒッターの気持ちで引き受け、二年後、予定していた加藤章先生に学長をバトンタッチしました。久慈理事長は、気の毒と思われたのでしょう、その後も私に理事職を続けさせてくださいました。なお、当

栄養科学部栄養科学科がスタートして一年が経ちました

平成二十二年四月、栄養科学部栄養科

学科は、短期大学部食物栄養科四十七年に及ぶ実績を土台に文科省の認可及び管

理栄養士養成課程として厚労省の認可を受け、八十八名の新入生を迎える声を上げました。

栄養科学部では、栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格のほか、栄養教諭一種免許状、食品衛生管理者任用資格、食品衛生監視員任用資格の取得ができます。

栄養士法には、栄養士の定義を「都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称

を用いて栄養の指導に従事することを業とする者」、管理栄養士の定義を「厚生労働大臣の免許を受けて、管理栄養士の名称を用いて、(1)傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導、(2)個人の身体の

状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識および技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導、(3)特定多数人に對して継続的に食事を提供する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行ふことを業とする者」と示されております。栄養士の定義は名称

ではなく、一層の努力が望されます。

同窓会に関してですが、私立大学は特に同窓会と大学との結びつきは重要です。そこで、菅原会長と協力して、さらに強固なものにしたいと願つて居ります。会員の皆様には、何卒、宜しくお願ひ致します。



（栄養科学部長 笹田陽子）

養士養成課程のカリキュラムも①多様な専門領域に関する基本となる能力、②必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力、③チーム医療的重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、④保健・医療・福祉・介護システムの中で栄養・給食関連サービスのマネジメントができる能力、⑤健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を養うことを基本として組まれております。

三年目を迎える新年度にはいよいよ学外での実習も始まり、「栄養教育実践論」「臨床栄養管理学」「給食経営管理実習」「校外実習」などの実践的な科目が開講となります。

現在、わが国は高齢化・少子化がますます進み、世界に誇る長寿国ではありますが、寝たきりや生活習慣病などの要介護高齢者が増加し、健康寿命の延伸、OOLの向上が求められています。また、過食や運動不足からくる糖尿病、がん、心臓病など生活习惯病の増加、朝食の欠食や孤食など栄養・食生活に起因する多くの問題があります。

管理栄養士は、栄養・食生活から健康づくりを推進する専門職として、病院や介護施設や保健所などの行政施設、保育所・幼稚園、学校、また、民間企業の食品研究・開発部門など多岐にわたる職域で活躍しております。

学生たちは目指す「栄養の専門家像」を明確にし、管理栄養士国家試験、さらに就職活動に向かつて頑張っております。管理栄養士は業務が明確に示されており、管理栄養士の定義は名称

卒業生は今

文学部英語文化学科 平成 20 年度卒業

千葉暢子

昨年 3 月、ゴーと言う地響きと共に現れたビルよりも高い黒い波が街を覆いました。あれから 1 年。盛岡大学を卒業してからは 4 年が過ぎました。在学中は英語文化を専攻し、同時に日本語教師の勉強もしました。現在はその日本語教師の仕事の傍ら、石巻を活動拠点としている国際ボランティア団体 It's Not Just Mud に加わり、ガレキ撤去、地域産業支援等の活動を行っています。

震災発生当時、被災地の映像を暖かい居間で観ていた私は、2 つの現実に違和感を持ち、何かしたいと思い立ってボランティアを始めました。友人を通じて知ったこの団体には、今でも「役に立ちたい、ボランティアをしたい」という人が世界中から集まり、一緒に汗水垂らし日々活動しています。國も言語も文化も違うのに皆が分かり合える場所です。この環境での出会いが人生の価値について深く考えるきっかけとなりました。これはお金には代えられない貴重な経験だと思います。そしてこの仲間が私の可能性を広げてくれました。ボランティアをしたいと言っていた私が、結局は一番救われているのだと気がつきました。この気持ちを返すためにも私は今も活動を続けています。

私が人生に悩んでいるとき、石巻で知り合った友人が語ってくれた「幸せの中の不幸—誰もが挫折をし悩む…しかし、それは生きていることの証だ」と彼女は私に言ってくれました。人生一度きり。皆さんもそうであるように私も自分にとって最高の人生をこれからも歩んでいこうと思っています。

文学部児童教育学科 昭和 60 年度卒業

福田真理子(旧姓伊藤)

大学時代はアルバイトをしたり、友達と遊んだり、あつと言う間に 4 年間が過ぎました。就職活動は幼稚園を一つ受けたものの不合格でした。企業で事務職をしながら保育士の免許も取ったものの、そのまま事務職を続けた二十代。三十代で結婚、出産。主人は転勤族で二年ごと全国を転々とし、気が付くと子どもも大きくなり、中学入学を期に大阪市に落ち着く事になりました。

働くかと思った時にはもうすぐ五十代…ずっと専業主婦だった私にはパートしかないかと思った時、主人から「資格を活かしてみたら?」と言われ、全く経験の無い私に声がかかるわけがないと思いながら登録すると、直ぐに 4 月からと言われ、悩む間も無く飛び込んだ保育所。いきなり二歳児の担任にされ、「保護者から見たら、正職員も臨時職員も関係無いから!」とはっきり言われ、毎日子ども達に振り回され、ヘトヘトになりながら、明日は辞めようと思う日々でした。でも、ふと気付くと子ども達へ愛情が湧き、日々の成長を喜ぶうち、この仕事に適り甲斐を感じるようになりました。

今でも辛いと思う事もありますが、毎日充実した日々を過ごしています。できればもっと早くからこの仕事についていたらと思う事もありますし、やる気さえあれば年齢は関係無いのかな?とも思います。これからも体力の続く限り保育士として頑張っていきたいと思います。

川崎支部だより

文学部児童教育学科

平成 22 年度卒業

小笠原 彩

この度、盛岡大学同窓会川崎支部を発足させていただきました。私たちは、平成 22 年度盛岡大学の卒業生です。4 年間、一緒に教師になることを目指し、大学生活を送っていました。現在は夢が叶い、川崎市の教員として働いています。毎日が新鮮で、かわいい子どもたちと共に学び、支えてくれる多くの人に感謝をしながら、1 日 1 日を過ごしています。

4 月からの月日、慣れ親しんだ、大好きな東北を離れての社会人生がスタートしました。初めての土地、初めての社会人としての日々に不安でいっぱいの私たちでしたが、連絡を密に取り合い、悩みがあるときは互いに相談し、一緒に悩んだり、うれしいときはみんなでその気持ちを分かち合ったりしながら過ごしてきました。横のつながりが強いことが、頑張ってこられた要因だと思います。一緒にがんばれる仲間がいることは、とても嬉しいことであり、励みとなります。

そこで、私たちの代から発信し、川崎へ来る後輩たちが安心してられる環境づくりをしたいと考えました。また、先輩方も多くいるようですので、先輩方の話を聞きながら意見交流などできたら、と。これからは、横のつながりだけではなく、たてのつながりも大切にしていきたいと考えています。

現在メンバーは 10 名です(写真は 8 名ですが)。4 月には、新採用の 10 名が加わる予定です。川崎で教職についている方、ぜひぜひ川崎支部へ。連絡お持ちしています。

同窓会の皆様、賛同くださりありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

< 連絡先 > 090-1062-9043



前列右から 2 番目が千葉さん



前列左から 2 番目が小笠原さん

盛岡大学生の震災ボランティア活動 —被災地図書館支援プロジェクトを中心に—

盛岡大学では、東日本大震災に関連して、日本ユニセフ協会の「無料子どもバス遠足」への「こどもサポートボランティア」参加や、岩手県レクレーション協会主催の「2011 年度『恵みの森自然学校』」への学生ボランティア参加など、文学部児童教育学科、短大部幼児教育科を有する本学ならではの特徴を生かしたボランティア活動を行ってきました。また、図書館司書課程を有する大学として「被災地図書館支援プロジェクト」を立ち上げ、陸前高田市立図書館に司書課程の教員と学生を中心とした支援を、大槌町立吉里吉里小学校、陸前高田市立小友小学校へ図書館職員が支援を行いました。なかでも、「3.11 絵本プロジェクトいわて」より野田村立図書館へ寄贈される約 2500 冊の絵本、児童書の整理、ブックコーティング作業へのボランティアを募集したところ、文学部全学科、全学年から、学生 80 名以上、学外からも 40 名を超える申し込みがありました。作業は 2 月 6 日にブックコーティング講習会を行い、翌日から連日 20 名を超える参加を得て 2 月 24 日に完了。野田村への移送を待つだけとなっています。復興に向けてこれからも可能な限り継続した支援を大学でも行いたいと思っております。



「Wish」～夢灯りに願いをこめて～

児童教育学科

4年

有志団体 Wish
代表 門別 整

最初に、今年度も昨年度、一昨年度同様に wishland を開催でき、様々な支援をいたいた盛岡大学聖陵同窓会の皆様に深く感謝と御礼を申し上げます。

今年度は昨年度とは違い、全学年全学科に協力を求め、より質の高い、壮大なものを作り上げようということを目標に活動いたしました。総勢50名ほどの学生に協力をいただきました。今回は特に後輩の協力をいたしました。今年度は特に盛岡大学の伝統イベンツの一つとなることを願つております。

今年行つた内容を説明いたします。昨年度と同様に雪祭りと夢灯りを行いました。雪祭りは松園幼稚園の年長組を迎えて、楽しい時間をお過ごしてもらうことを主眼とし、製作をしました。今年度は雪が少なく、製作にあたつては雪集めから始まり、積んでは固め、積んでは固めを繰り返し、高さが約2メートル50センチほどのかまくらを作りました。その他、2コースある滑り台宝探し、雪だるまを的にした的当て、ドラえもん、ピカチュウの雪像を作成し、園児がより楽しめるように工夫しました。雪祭りにあたり残念だったのが、当日小雨が降つてしまつたため、かまくらが倒壊する可能性があつたので、園児たちをかまくらの中に入れることが出来なかつたことです。かまくらの大きさは大人が15人ほど入れるように作つたため、園児からする

とかなり広く感じられるものだと思います。製作に一番時間をさいたものであったので、とても残念に思っています。しかし、園児はその他の製作でとても楽しい様子だったので、見て、私たちは、この雪祭りを開催することができて本当に良かったと思っております。

次に、夢灯りについてですが、今年の協力者の中には東日本大震災にて、実際に家が流されたり、火災で家を全焼してしまった学生もいました。代表者で集まり、話し合いをしていた時に、被災者の方々にエネルギーを送りたいという気持ちを皆強く持つていたため、今回は「絆」という文字をペットボトルで作った灯籠で表現しました。また、園児の作った灯籠を夢灯りロードに置き、様々な絵柄のきれいな道を作ることができました。来てくれた方々の皆さんに「きれいでいいですね。」などのお声をいただきことができましたし、私たち自身も魅了されたほど遠い町の様子にいたたまれない気持ちでいっぱいでした。その一方で、訪れた先でお会いした方がからは「負けてなるものか」という強い意気込みをひしひしと感じました。とりわけ大学や短期大学部の卒業生の方がたとの現地での出会いは、これからも強いつながりを持つ

事務局としても何かできることを、とさつそく安否確認報告を始めました。同窓生の無事の報告に安堵するのとともに残念な報告もしなければならずつらい作業になりました。仕事などで宮城県、岩手県沿岸と被災地に数度足を運びましたが、1年近く経てまだこういう状況なのかなと、メディアの報じる「復興」とはほど遠い町の様子にいたたまれない気持ちでいっぱいでした。その一方で、訪れた先でお会いした方がからは「負けてなるものか」という強い意気込みをひしひしと感じました。とりわけ大学や短期大学部の卒業生の方がたとの現地での出会いは、これからも強いつながりを持つ

平成 22 年度 聖陵同窓会決算報告 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額
入会金	1,675,000	1,510,000
終身会費	3,420,000	3,020,000
雑収入	100,000	51,003
特定預金取崩収入	110,748	0
計	5,305,748	4,581,003
繰越金	1,879,953	1,879,953
合計	7,185,701	6,460,956

支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額
事業費	1,780,000	1,655,029
事務費	100,000	2,499
通信費	700,000	623,040
会議費	150,000	57,586
慶弔費	100,000	29,096
旅費交通費	100,000	21,000
財政基金繰入支出	3,000,000	3,000,000
計	5,930,000	5,388,250
繰越金	1,255,701	1,072,706
合計	7,185,701	6,460,956

■編集委員

吉田典子(昭和 60 年度卒)／三戸淳一(昭和 62 年度卒)／藤澤弘樹(平成 4 年度卒)／佐藤大裕(平成 12 年度卒)／上條尚樹(平成 15 年度卒)
吉田智子(平成 15 年度卒)／川田彩乃(平成 20 年度卒)

編集後記

昨年は東日本大震災を経験し、様々な人ととの「絆」を学ぶ一年でした。聖陵同窓会報は、「同窓生の絆」をテーマに作成しています。今後も同窓生の懸け橋となるよう、編集委員一同絆を深め、より一層同窓生の皆様の声を広く集め広く伝えたいと思います。

